

## 各位

寒冷の候、平素は児童館事業にご理解ご協力誠にありがとうございます。

今年もあとひと月、短くもあり、また長く感じた緊張の一年を終えようとしています。事業の計画をしても、緊急事態宣言発令で、中止や延期となり、殆どの取り組みが出来ない日々でした。

人との関りで楽しみややりがいを感じられるのに、それもなく、昨年からの流れで、新任職員は、これが平常の過ごし方だと感じていることが懸念されました。

しかし、こんな時でも楽しむこと、みんなで笑い合えることを考えよう／やっという心がけ、学童つ子との関りはいろんな提案をしてくれて私も楽しませてもらいました。

午前中の乳幼児の取り組みは、一生懸命準備をしてくれていても、緊急事態宣言発令中は中止、解除後は、人数制限、申し込み制とかなりハードルが上がりましたから、なかなか人が戻って来てくれません。

先日、民生さんのサロン「すくすく広場」が久々に開催されました。

「先生／やつと来れたわ／長かった／」と行くところも制限されてしんどい思いをしている親子さんの心からの声でした。本当にごめん……。何にもしてあげられていませんでした。

しかし、感激したことがありました。民生委員の皆さんがなんと元気なこと！それぞれが役割を担っておられ、絵本の読み聞かせ、似顔絵、ハンドマッサージ、パッチワーク等々はプロ級の皆さん。それに、歌を担当されているお二人の演出と歌声は元気と勇氣と希望を与えてくれました。明日又頑張ろう！という気持ちにさせられます。お二人には、ばあば世代の「地域の歌姫」としてこれからも活躍していただきたいなあと思っています。

世代世代の役割ややりがいがあります。若い職員達は、インスタ映えする工作や、写真を集めるように、寝相アート等工夫し、ウェブ同時開催も視野に入れてくれています。

児童館っているんな世代の方々が集まり、それぞれ好きな事得意な事が出来る場所です。その大人の姿こそが、これからを担う子ども達に見せたい姿です。

将来の夢や希望が語れる、時には辛いしんどいが吐き出せる……。そんな場所として存在するのが地域の児童館なのです。

来年は、みんな「どうぞ！どうぞ！」と言えるようになるといいなあと思っています。

皆さん良いお年をお迎えください。

令和三年 十二月号のおたよりに添えて

社会福祉法人 積慶園

京都市嵯峨野児童館

館長 飯吉昌子